

2014 年度事業報告

1. 荒川クリーンエイドの運営

【事業の概要】

荒川の支流も含めた水系で荒川クリーンエイドを運営した。実施回数、参加人数ともに過去最高を記録し、新たな実施会場の開拓にも取り組み、規模、実施範囲ともに拡大した。

ゴミを拾うだけでなく、参加者が川ゴミの環境負荷や発生原因等について学び、日頃からできるだけゴミを生まない生活を実践するよう、マイボトル持参の呼びかけの強化、紙芝居によるふりかえりの充実などを行った。マラソン大会に加え、サイクリング団体とも新たに連携し、河川敷利用者への啓発を進めた。これらの活動によりゴミが捨てられない機運をつくった。

毎月事務局が主催（または共催）する活動を実施し、気軽に活動に参加できる機会を増やし、個人参加者の拡大、リピーターとのコミュニケーションに努めた。

【主な実施事項】

① 調べるゴミ拾い

2014 年度も、散乱ゴミ、粗大ゴミについて「調べるゴミ拾い」を実施した。

149 会場がエントリーし、140 会場で実施、延べ 14,453 名が参加した。参加者数、会場数ともに過去最高を記録した。9 つの新規実施団体を迎え、年間延べ活動距離は、下流域のみで 18.8km。内 2km は、近年実施していない新たな実施であった。

② 説明会・体験会の開催

8 月 30 日に説明・体験会、4 月 13 日に体験会を開催し、特に、初めて実施する団体、キャプテンや担当者が交代する団体などに参加いただき、運営方針や実施方法の周知を図った。10 月 13 日に予定されていた体験会は雨天中止となったが、秋から毎月実施している事務局主催の活動をその代わりとして、初めて実施する団体・キャプテンを受け入れた。

③ 主催・共催会場の運営

12 月 6 日に、SAVE JAPAN プロジェクトの一環として荒川クリーンエイドを主催した。4 月 26 日および 1 月 17 日に FUJIO PROJECT、10 月 4 日にふるさと清掃運動会実行委員会、6 月 29 日および 12 月 14 日に 豪田ヨシオ部、8 月 24 日にグッド・チャリズム宣言プロジェクトと、それぞれ共催し、荒川クリーンエイドを多くの皆さんに知っていただく機会とした。

④ あちこちクリーンエイドの開催

アクセスが悪くゴミが残っている場所を中心に、一般参加ができるよう、秋以降に当フォーラム主催の「あちこちクリーンエイド」を開催した。9 月、11 月、2 月、3 月の計 4 回開催した。

⑤ 実施サポート

実施団体の要望に応じて、活動実施のサポートを行った。(20 団体計 24 回)

⑥ 「ゴミをできるだけ生まないライフスタイル」の啓発 ～紙芝居<new>、マイボトル de ゴミ拾い。～川ゴミの自然環境への影響や、ゴミをできるだけ生まないライフスタイルについて考える機会を提供することを目的に、ゴミ拾い後のふりかえり時などに活用できる「紙芝居」を 2 種制作し活用した。希望団体へ貸出も開始した。「マイボトル de ゴミ拾い。」キャンペーンに取り組み、マイボトルの持参を呼びかけた。

⑦ 河川敷利用者への啓発

荒川河川敷で多くの参加者を集めて活動している FUJIO PROJECT（マラソン大会）、グッド・チャリズム宣言プロジェクト（サイクリング）、アールビーズスポーツ財団（マラソン大会）と連携して、マラソン会場等の中でクリーンエイドを開催し、啓発フライヤーを配布するなどして、河川敷利用者に対するゴミ削減の啓発を推進した。

2. 生物多様性の保全

【事業の概要】 体制

里川創造プロジェクトについては、国土交通省の「荒川下流自然地理管理アダプト制度」の下、荒川クリーンエイドを中心に、楽しみ、学びながら都市の自然を守ることを目指し、他の市民団体、学校、企業等と連携して自然地の環境保全と普及啓発を進めた。

絶滅危惧種の復活プロジェクトは、地域団体が中心となる体制を視野に入れ、協働しながら進めた。

【主な実施事項】

① 里川創造プロジェクト

江戸川区小松川自然地において、「里川小松川自然地理協議会」の構成団体として、地域の団体や学校、企業と協働し、荒川クリーンエイド、外来種の除草、モニタリング、自然環境教室など、自然地の環境保全とその普及啓発を推進した。荒川下流自然地理管理アダプト契約を結び、国との連携を継続した。

足立区千住桜木地区においても、荒川下流自然地理管理アダプト契約を新たに結び、クリーンエイド活動を中心に、環境保全を進めた。また、その他の地域においては、SAVE JAPAN プロジェクトの実施の他、荒川クリーンエイド実施団体の要望に応じて、外来種の除草等の支援を行った。

② 絶滅危惧種の復活プロジェクト

荒川河川敷のヒヌマイトトンボ生息地において生息環境の整備、および生息個体数のモニタリングを実施し、1匹の生息を確認した。地域団体が中心となる体制を視野に入れ、地域団体、自治体、国と協働しながら取り組んだ。

3. 環境教育の推進

【事業の概要】

荒川クリーンエイド実施団体や地域の団体と連携しながら、人々が川ゴミの問題について学び、環境保全意識を高めるよう、荒川をフィールドとした環境教育を推進した。

人材育成プログラムについては、若者層への啓発の機会として、新入社員研修を中心に、積極的に推進した。

【主な実施事項】

① 学校教育の支援

小松川自然地・里川創造プロジェクトの一環として、2校3回の支援を行った。その他の地域については、地域の団体等と連携して、学校が実施する荒川クリーンエイドを支援した。

② 人材育成プログラムの実施

チームビルディングを体験しながら川ゴミの環境負荷について学ぶ「環境に悪いゴミ拾いゲーム」を中心に、プログラムをブラッシュアップした。5社の新入社員研修、1社の内定者研修、1社の一般社員向け研修で実施した。

③ 自然環境教室の支援と開催

里川創造プロジェクトの一環として、市民が参加できる自然環境教室「バッタとなかよし」を9月14日に開催した。また、クリーンエイド実施サポートの一環として、自然環境教室の支援を行った。

4. 水質調査の実施

【事業の概要】

身近な水環境をモニタリングし、水環境への関心を高めることを目的に、6月の「身近な水環境の全国一斉調査」に参加した。

【主な実施事項】

① 「身近な水環境の全国一斉調査」への参加

荒川本川、及びその支川、また、流域各地の川や池などでの調査者を募集し、6月8日(日)午前10時を中心に37箇所で開催された調査結果を取りまとめ、全国水環境マップ実行委員会に提出した。12月5日に開催された同実行委員会に参加し、調査活動の展開や運営について検討を行った。

5. 流域連携

【事業の概要】

荒川流域内の交流と、流域の課題の共有を目的に、源流域、中流域、及び下流域の団体と連携した活動を推進した。

【主な実施事項】

① 荒川源流エコツアーの実施

9月6-7日に、1泊2日で、荒川源流部へのエコツアーを実施し、21名が参加した。秩父市の薪拾いボランティアに参加し、現地で活動されている方との意見交換会を行い、源流の森の恩恵を受けている下流市民が、源流の自然を楽しみながら源流の問題を共有できる機会とした。

② 荒川流域再生プロジェクトへの参加

NPO法人荒川流域ネットワークを中心とする荒川流域再生プロジェクトが行ったアユの遡上調査活動に参加し、子どもたちも参加できる「地引網体験会」のうち8月10日の会に参加を予定したが、雨天により中止となった。2015年3月14日開催の「荒川流域再生シンポジウム」には共催団体として参加した。

③ 埼玉県河川環境団体連絡協議会や川の再生交流会への参加

埼玉県内の河川団体が加盟する埼玉県河川環境団体連絡協議会(埼河連)や2月8日に開催した埼玉県主催川の再生交流会に参加し、連携を図った。

④ 荒川自然懇談会を通じた荒川下流河川事務所との協働

当フォーラム役員が多数参加する荒川自然連絡会と荒川下流河川事務所との間で行っている「荒川自然懇談会」を官民協働の場とし、荒川の自然の回復に向けた協議を行った。(本年度は3回開催)

6. 他セクターや全国・世界とつながる活動

【事業の概要】

全国の川や海とつながって川ゴミ問題の解決、発生抑制に取り組むことを目指し、川ゴミ拾いの全国ネットワークとして活動をはじめた。また、業界団体、自治体等と連携を行い、川や海ゴミの発生抑制に向けた啓発を推進した。

【主な実施事項】

① 全国の河川との連携 ～全国川ごみネットワーク～

1月23-24日に、「第1回川ごみサミット」を開催し、市民と産官学が集い川や海ゴミの課題を共有し、その解決に向けて活動していくことを宣言した。

② いい川づくりワークショップ

全国の河川で活動する団体が事例を発表し学び合う「いい川づくりワークショップ」に参加し、事例を紹介した。

③ 河川協力団体

スタートしたばかりの河川協力団体制度の登録団体の集まりに参加し、全国的な連携を検討した。

④ 海ゴミとの連携 ～一般社団法人 JEAN との連携～

世界の海洋ゴミ調査と世界の海ゴミ問題の解決に貢献すべく、荒川クリーンエイドのゴミ調査結果を JEAN に提供した。

⑤ 東京都海ゴミ対策事業への協力

海ゴミ対策のための調査事業について、荒川の事例および荒川でのデータを提供し協力した。

7. 広報・情報発信

【事業の概要】

各種情報媒体を活用し、主に次の目的で広報・情報発信活動を展開した。

- ・荒川クリーンエイドへの参加者・賛同者を増やす
- ・会員・関係者間のコミュニケーションを促進し、情報や運営方針の共有を図る。
- ・川ゴミの発生抑制を目指し、調査データ等を活用した情報発信を行う。

【主な実施事項】

① ホームページ

最新情報や各詳細コンテンツの充実を図るとともに、見やすいページ作りに努めた。

更新しやすいシステム（ワードプレス）を導入し、更新頻度を高めた。

ブログについて、カテゴリー分けを再構築し、読者が知りたい情報という観点で掲載内容の見直しを行った。

② ニュースレター

テーマ性を重視しながら、会員や関係者との情報共有を図るべく、年3回(8,1,3月)発行した。

③ Eメールニュース（メールマガジン）

毎月初めに（年12回）配信し、各月の旬のニュースを配信した（約900名に配信）。

④ 報告集

ゴミの調査データや活動の成果を集約した報告集を発行した（1200部）。会員、関係者および情報拠点等に配布した。

⑤ ポスター、リーフレット

実施団体が秋のクリーンエイド参加者を募集する支援としてポスター1000部、リーフレット17,000部を作成した。実施団体、沿川の自治体に活用いただいたほか、情報拠点や、沿川の約30駅でも配布・貼付いただいた。

⑥ 啓発フライヤー <new>

荒川のゴミの現状や荒川クリーンエイドについて知ってもらう、ゴミを捨てない啓発等を目的に、フライヤー3種類を作成し、荒川河川敷やイベント会場等で配布した。

⑦ ソーシャルメディア

Facebook を活用してタイムリーな話題を提供し、荒川クリーンエイドや川ゴミ問題への関心を高めた。

⑧ イベント出展

流域自治体等で実施したイベントに出展し、活動を広めた。

各地域でイベント出展ができるよう、パネルや紙芝居の貸し出し等の支援を行った。

⑨ セミナー開催・講演など

新設された毎日メディアカフェでのセミナー開催など、セミナーやイベントへのゲスト参加などを積極的に行い、荒川クリーンエイドや川ゴミの現状を伝える情報発信を行った。

8. 組織運営

【事業の概要】

報告会及び連絡会を通じて、会員等とのコミュニケーションを活性化し、また、理事・運営委員会を通じて、より円滑な組織運営を図った。

【主な計画事項】

○報告会の開催

2月13日に報告会を開催し、活動の成果について会員・関係者等と共有した。また5団体に功労者賞を贈呈した。

○連絡会の開催

2月13日、報告会に併せ連絡会を開催し、意見交換を行った。特定非営利活動法人 OWS 横山氏から「野生生物を脅かす海洋ゴミ」のテーマで話題提供をいただき、川や海のゴミ問題を考える機会とした。

○理事・運営委員会の開催

総会議案、人事等について協議決定するため理事会を3回開催した。

事業を円滑に進めるため、運営委員会を6回開催した。

○事務局体制の強化

年度当初は、2名の専従職員と2名の非常勤職員による運営であったが、専従職員を募集・採用し、9月からは専従職員3名とし、事務局体制の強化を図った。

○ファンドレイジング（資金調達）

社員研修、企業サポートなど自主事業化できるサービスを増やし、自主財源基盤の強化に努めた。

2014 年度活動概要一覧

| 事業 | 活動名 | 実施日・会場等 | 概要 |
|---------------------------------|-------------------|---|---|
| 1 荒川ク リーンエイ ドの運営 | 荒川クリーンエイド 2014 | 4～12 月 | 荒川クリーンエイド 2014 として、荒川流域で年間 140 会場、参加者 14,453 人で実施 |
| | 荒川クリーンエイド 2015 | 1～3 月 | 3 月までに 14 回実施 |
| | 説明会・体験会 | 8/30 足立区生涯学習センター 4/13 | 活動の趣旨・実施方法の説明等、現地での体験及び説明 下平井水辺の楽校 |
| | 主催・共催会場の運営 | 4/26、1/17、8/24 10/4、6/29、12/14 12/7 9/27,11/22,2/28,3/28 | マラソン、駅伝大会、サイクリング団体共催 ふるさと清掃、豪田ヨシオ部共催 全国的なプロジェクト(SAVE JAPAN)との共催 あちこちクリーンエイドとして主催 |
| | 啓発 | | 紙芝居（2 種類）を作成、活用 |
| 2 生物多様 性の保全 | 里川創造プロジェクト | 9/4、9/13 4 月～翌年 3 月 | モニタリング、「バッタとなかよし」主催 小学校、企業等の活動支援 |
| | 絶滅危惧種の復活プロジェクト | 4 月～翌年 3 月 | 生息環境の整備、個体数モニタリング 15 回。 |
| 3 環境教育 | 学校教育の支援 | | 2 校 3 回支援 |
| | 社員研修 | | 4,5 月に新入社員研修実施、プログラム開発は通年 |
| | 自然環境教室開催・支援 | | クリーンエイドの後に、および独自開催 |
| 4 水質調査 | 身近な水環境の全国一斉 調査 | 6/8 12/6 | 荒川下流域 37 地点で実施 全国水環境マップ実行委員会に参加 |
| 5 流域連携 | 荒川源流エコツアー | 9/6～7 | 水源林保全ボランティア参加、意見交換会 |
| | 荒川流域再生プロジェクト | 3/14 | 8/10 予定の地引網体験会は雨天中止、シボジウム共催 |
| | 埼玉川の再生交流会 | 2/8 | 埼玉県主催イベントに参加 |
| | 荒川自然懇談会 | 8/5、1/9、3/26 | 随時参加 |
| 6 他セクターや 全国・世界と つながる活動 | 全国川ごみネットワーク | 7/25 1/23-24 | 実行委員を中心とした打合せ(海ごみサミット会場) 第 1 回川ごみサミット開催 |
| | 一般社団法人 JEAN との連携 | | 荒川クリーンエイドのデータを提供 |
| | いい川づくりワークショップ | 9/20,21 | 参加、事例発表 |
| | 河川協力団体 | 9/19,2/28 | 会議に出席 |
| 7 広報・情 報発信 | ホームページ、Facebook | 随時 | 随時更新 |
| | E メールニュース | 毎月初め | 12 回発信 |
| | ニュースレター | 8,1,3 月 | 3 回発行 |
| | 報告集 | 3 月発行 | 1200 部。昨年比 8 ページ減。活動成果の報告 |
| | ポスター・リーフレット | 8 月制作 | ポスター1,000 部、リーフ 17,000 部。参加者募集 |
| | 啓発フライヤー（3 種類） | 7～9 月制作 | 10,000 部×1、5,000 部×2 種類。 |
| | イベント等出展 | 6/7、12/11～13 | 江戸川区環境フェア、エコプロダクツ 2014 |
| | セミナー開催・講演など | 4/24、11/18 ほか | 毎日メディアカフェほか |
| 8 運 営 | 第 15 回定期総会 | 5/17 | 足立区生涯学習センター |
| | 報告会 | 2/13 | 荒川クリーンエイド 2014 の成果報告、功労者賞贈呈 |
| | 連絡会 | 2/13 | 話題提供、意見交換 |
| | 理事会・運営委員会 | | 9 回開催 |